

**製品名: PFK-C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16016**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	84kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PFKP
別名	PFKP; PFKF; 6-phosphofructokinase type C; 6-phosphofructokinase; platelet type; Phosphofructo-1-kinase isozyme C; PFK-C; Phosphofructokinase 1; Phosphohexokinase
遺伝子 ID	5214.0
SwissProt ID	Q01813
免疫原	抗血清はヒト K6PP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 341-390

**背景**

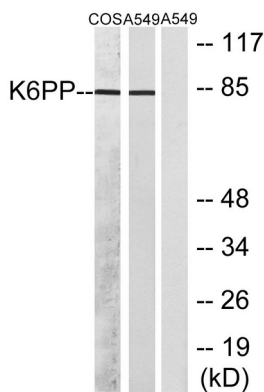
この遺伝子は、ホスホフルクトキナーゼ A タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされている酵素は、ホスホ

フルクトキナーゼの血小板特異的アイソフォームであり、解糖系の調節において重要な役割を果たしています。この遺伝子は、腎明細胞癌、膀胱癌、乳癌、肺癌など、一部の癌における代謝リプログラミングに関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2016年9月],触媒活性: ATP + D-フルクトース 6-リン酸 = ADP + D-フルクトース 1,6-ビスリン酸。補因子: マグネシウム。酵素調節: ADP、AMP、またはフルクトースビスリン酸によって活性化され、ATP またはクエン酸によって阻害されるアロステリック酵素。その他: ヒトでは、PFK は、PFKM (筋肉)、PFKL (肝臓)、および PFKP (血小板) アイソザイムの3種類のサブユニットのシステムとして存在します。経路: 炭水化物の分解; 解糖; D-グルコースから D-グリセルアルデヒド 3-リン酸とグリセロンリン酸: ステップ 3/4。類似性: ホスホフルクトキナーゼファミリーに属します。2つのドメインサブファミリー。サブユニット: テトラマー。筋肉は M4、肝臓は L4、赤血球は M3L、M2L2、または ML3 です。血小板型サブユニットの割合が高いサブユニット構成は、血小板、脳、線維芽細胞に見られます。

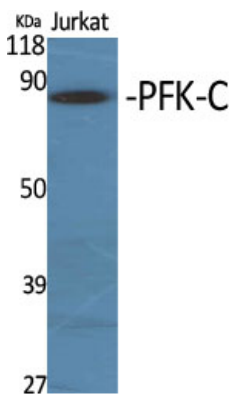
## 研究分野

解糖系/糖新生;ペントースリン酸経路;フルクトースおよびマンノース代謝;ガラクトース代謝;

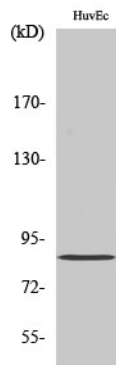
## 画像データ



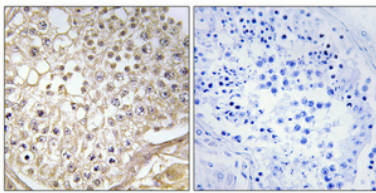
K6PP 抗体を用いた A549 細胞および COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



PFK-C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



PFK-C ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。